

栄養管理室

風間敬一

栄養管理室は、チーム医療に積極的に参加し入院患者の栄養状態改善・維持、免疫力低下防止や治療効果及び QOL 向上に努めてきた。NST では、病棟単位 NST チームが増えて、算定件数や栄養食事指導件数も増加してきた。食事では、術前術後の栄養管理、化学療法での食欲低下患者、嚥下障害患者対応に、術前経口補液食や PC 食、嚥下食を提供して栄養改善と喫食率の向上に努めてきた。

今年度の、栄養管理室で行った主な取り組みについて下記に示す。

1. 栄養サポートチーム加算

入院患者の栄養管理をチームで取り組み、各病棟リンクナースによる抽出対象患者栄養チェックリストを基に、専任（医師、薬剤師、看護師）と専従（管理栄養士）による事前カンファレンスを行い、抽出患者の回診後に専従が栄養治療実施計画&報告書を作成してきた。病棟に NST 対応のスタッフがが増えて算定件数が増加した。

2. 栄養食事指導

NST 対応患者や手術後患者を対象とした栄養食事指導を積極的に実施してきた。件数は前年度より増加してきており、糖尿病、腎臓病が増加している。

指導時の栄養評価の一つとして、電気インピーダンス法 (INBODY) による体液量、体脂肪量、体蛋白量等を測定し、体組成評価も併せて実施している。

3. 1 型糖尿病教育入院の指導

入院患者の 1 型糖尿病患者がインシュリンポンプを導入するとき、栄養食事指導時に糖質を計量するカーボカウントを導入して対応してきた。患者が自分で食事に合わせてインスリンを調整することができるなど、患者の食生活に沿った指導ができるようになった。退院後は外来で継続指導を行っている。

4. 糖尿病透析予防指導管理料

平成 24 年度から新たに新設され、糖尿病内科、看護部と栄養管理室でチーム体制を構築し 6 月から算定できるようになった。(月平均 12 名の算定件数)

5. Nutrition Week

当院は、日本静脈経腸栄養学会認定の NST 教育認定施設になっている。

職員の栄養療法に対する知識・意識の高揚と、栄養不良患者に対する医療の質的向上のために、ニュートリションウィークを開催した。

参加者は近畿ブロック職員だけでなく民間の職員も受け入れており、栄養管理の最新・高度の知識・技術を修得させ、サービスの質と提供体制の均質化及び向上を図ることを目的として実施した。開催は 5/28~6/1 に行い 26 名（機構 7 名、機構外 7 名、大阪 12 名）の参加者があった。

6. チームの活性化と栄養療法の質的向上を目指し、NSTセミナーを開催した。

- ・ 6月1日 「第12回NST院内定期公演 サルコペニアと栄養との関わり」
名古屋大学大学院 葛谷雅文先生
- ・ 7月6日 「栄養スクリーニングとアセスメント ～看護師の立場から～」
担当：NST 低栄養グループ
- ・ 10月5日 「栄養管理を考えよう ～どんな効果があるかな～」
担当：NST 栄養サポート回診チーム
- ・ 11月2日 「簡易懸濁法ってなんで必要なの？～正しい方法と根拠を知ろう～」
担当：経腸栄養・口腔ケアグループ
- ・ 12月7日 「がん化学療法と食欲不振」
担当：薬剤科
- ・ 2月1日 「当院の経腸栄養剤を知ろう～経腸栄養剤の AtoZ～」
担当：栄養管理室
- ・ 3月1日 「唾液を試料としたストレス検査」
担当：検査科

【2012年度研究発表業績】

A-6

大池教子、林 伊吹：チーム医療実証事業：平成23年度4月-24年度3月 報告、厚生省 2012年6月

B-3

林 伊吹、辻仲利政、青野幸余、玄 富翰、大池教子、岡田彩、庄野裕志、小西大輔、古川八重子、藤田和代、古澤三千代、玉木綾子：シンポジウム NST リーダーから見た大阪医療センターNSTの現状と今後の課題について 第66回国立病院総合医学会、神戸、2012年11月

B-4

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、風間敬一、加藤研、森本竹紗、豊田久子、和田万葉、瀧秀樹：教育入院中の2型糖尿病患者におけるEPA強化の有効性、第66回国立病院総合医学会、神戸、2012年11月

B-4

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、風間敬一、加藤研、森本竹紗、豊田久子、和田万葉、瀧秀樹：2型糖尿病患者におけるEPA強化の有効性、第9回国立病院栄養研究学会、岡山、2013年1月

B-5

鳥山明子、三賀森学、松野裕旨、島田志美、庄野裕志、盛本優香、南昌宏、辻仲利政：ICU・NSTカンファレンス症例の背景について、第7回大阪NST研究会、大阪、2012年7月

B-8

鳥山明子、藤谷和正：世界の胃術後食：日本胃癌学会 第13回 市民公開講座、2012年11月